

◎ 定例会 「旧岩崎邸庭園と湯島天神」 2月8日(木) 晴れ 参加者 14名

◎ 定例会 ◇ 同好会 活 動 報 告 ☀ (1月後半—2月前半)

～時の風が吹く邸宅と、東風吹く境内を見聞しました～

晴れた空に薄い雲が広がり、立春は過ぎたものの、日影には先日降った雪が少し残り、冷たい風が吹く2月初旬。大江戸線の練馬駅に集合した12名が、上野御徒町駅に集合した2名と合流し、総勢男性9名女性5名で、台東区と文京区の境目の春日通りを10分ほど歩いて「旧岩崎邸庭園」に到着しました。11:20、この日の案内をお願いしたガイドボランティアのベテランの男性と女性、お二人と待ち合わせました。この日は、7名ずつ2班に分かれ、お二人から詳しく興味深い説明をしていただきました。



この場所は、海運業から三菱財閥を創設した岩崎弥太郎が、六義園と清澄庭園共々明治11年(1878年)に購入したところだそうです。弥太郎が明治18年(1885年)50歳の時に胃がんで亡くなり、長男の久弥が若かったため、弟の岩崎弥之助が三菱の2代目になりました。久弥は慶應義塾を卒業し三菱商業学校で学んだ後、アメリカに留学して帰国後、副社長として三菱に入り、明治27年(1894年)に29歳で三菱の3代目になりました。「旧岩崎邸」は明治29年(1896年)に、3代目の岩崎久弥の本邸として建造されました。

むかし入口の玄関を入ると洋室の応接間があり、その奥に多くの和室が連なる和洋折衷の邸宅がありましたが、「旧岩崎邸」がこのような建築様式の始まりだそうです。「旧岩崎邸」の完成当時は、洋館と、それを遥かにしのぐ規模の和館が連なっていました。洋館を設計したのは、ニコライ堂や鹿鳴館も設計したイギリス人ジョサイア・コンドルです。コンドルは1852年ロンドン生まれで、明治10年(1877年)来日し、工部大学校造家学科(現東京大学工学部建築学科)の教師に就任しました。弟子には、東京駅を設計した辰野金吾や、迎賓館赤坂離宮を設計した片山東熊など、そうそうたるメンバーがいます。

現在残っているのは洋館と、和館の一部ですが「旧岩崎邸」を見聞し当時の社交の場を思い浮かべることが出来ました。

- ・ 玄関を飾り、四季の新緑や紅葉が映るステンドグラス、
- ・ 赤い絨毯が敷き詰められたメインルーム、
- ・ 立派な大理石の暖炉と、その上に据え付けられた高価なガラスを使った大きな鏡、
- ・ 色あせないイスラム調の象嵌(そうがん)タイルが敷き詰められたベランダ、
- ・ シルクの刺繍を天井に施した婦人客室、
- ・ バッキンガム宮殿にも使われた日本製の金唐革紙(きんからかわし)の壁紙、
- ・ 房総半島や富士山が見渡せた、暖かい日が射す2階のベランダ、
- ・ 2階のベランダから見渡す広い芝庭と、高さ4m以上の雪見灯籠、
- ・ 離れの接待ピリヤード場と、そこへ邸宅からつながる地下トンネル、

等々。有意義な説明を受けた後「旧岩崎邸庭園」からほど近い店「隠れ家雲仙」の予約席で、11:45から全員揃ってランチをいただきました。850円～950円のランチ定食は、種類豊富でボリューム満点。カキフライ定食は牡蠣が5個も、エビフライ定食は海老が5本も、お皿に山盛りです。ビールやお燗を楽しんだ人もいて、約1時間ゆっくり歓談しながらのランチタイムを楽しみました。





午後の見学は、春日通りを渡って反対側の高台にある「湯島天満宮」を訪れました。この場所は、雄略天皇2年（458年）の創建と伝えられ、正平10年（1355年）に菅原道真を祀り、学業成就合格祈願と梅園で、多くの参拝者が訪れます。「女坂」の石段を登って「男坂」と合流した参道から境内に入ると、この時期は、おびただしい数の絵馬が奉られていました。菅原道真ゆかりの牛さし絵の絵馬が、幾重にも折り重なって溢れんばかりに奉納されてい

ました。〇〇大学、〇〇学院、〇〇学園、〇〇高校、等々「志望校に合格できますように」と合格祈願が書き記されて、中には「母より」という絵馬もありましたが、「父」は数少なく、「祖母祖父」は見当りませんでした。

ちょうど2月8日（木）から今年の梅まつりが始まっていました。土日祝日には奉納舞台や奉納演芸、神輿行列や湯茶接待、梅酒飲み比べ等の行事が執り行われるため混雑しますが、この日は程よい賑わいでした。こじんまりした「湯島天神」の境内ですが、梅園で早咲きの白梅を楽しみながら、集合写真も撮影し、14：20頃「夫婦坂」から春日通りに下りて、上野御徒町駅から帰途に着きました。

天候にも恵まれ、歴史を感じる社会見学を無事完了し、意義ある2月定例会を修めることが出来ました。ありがとうございました。



<報告：宇敷辰男>

2月例会時のスナップ写真



